

いかだつこう
筏津坑



現在の坑口

いかだつこう
筏津坑は、明治11年(1878)に開坑しました。

初め弟地坑と呼ばれ、現在の坑口から銅山川を挟んで対岸に坑口がありました。

一時は休止の時期もありましたが、95年もの間、別子銅山を支える大きな役割を果たしました。

現在の坑口は筏津新坑口として昭和15年(1940)に開坑されました。そして、同48年3月の別子銅山休山まで使用されました。



入坑待ちの人たち 昭和30年(1955)
日和佐初太郎氏撮影

別子銅山最後の坑口
ここに眠る

坑口周辺には、銅山で働く人たちの社宅、クラブ、娯楽場、診療所、日用品の販売所などが軒を連ね、盛況を極めていました。

現在は、別子銅山で使用されてきた坑口としては唯一入ることができ、坑内の様子を直接肌で体験することができます。

また、ここは別子観光センターとして開発され、宿泊と食堂施設を備えた「筏津山荘」があります。ここでは、山の幸や川の幸の四季折々の料理を楽しむことができます。

筏津坑はこの筏津山荘の裏手にあります。



現在の坑内の様子

ふれあいめぐりあい

もりびと
筏津坑の守人

こんどう てつお
近藤 鉄男

さんは、筏津山荘のご主人です。

当時の坑内の様子や生活についてお詳しく、また、ここへ訪れる方が楽しめるように坑内や周辺環境整備に努められ、いつもあたたかく迎えてくださいます。



こんどう てつお
近藤 鉄男さん

いつ咲く?



キレンゲシヨウマは日本人が初めて学名をつけた植物です。本州(紀伊半島)、四国、九州に分布していますが、山深くの山林に咲く花であることから「天涯の花」とも呼ばれています。宮尾登美子さんの「天涯の花」という小説でも紹介されました。

子供から年配の方まで気軽に花を楽しめるようにと、もともと石鎚山系の山深くにあったものを移植し大切に育てています。

さて、この花はいつ頃開花するでしょう。

答えは、裏にあります。

